

王滝村地域おこし協力隊 活動報告

令和8年6月末で2名が任期満了となりました。
3年間の報告と今後についてお知らせします。

泉 由希子（活動期間：令和5年7月～令和8年6月）

王滝村の皆さん、こんにちは。2026年6月末に、王滝村地域おこし協力隊を退任しました、泉 由希子です。3年間、皆様には大変お世話になりまして、誠にありがとうございました。

今年の2月半ばに右膝の半月板を負傷し、協力隊最後の半年間は、療養・手術・リハビリのため、業務に当たることが出来ず、大変ご心配・ご迷惑をお掛けし、申し訳ありませんでした。今後も王滝村で暮らしていくために、治療に専念させていただき、おかげさまで順調に回復しております。

協力隊に着任した当初、3つのミッションを掲げ、これらを軸に活動をしてまいりました。この軸が大きくぶれることはなく、3年間活動を進めることができました。

王滝村・御嶽山の自然の情報発信、保護活動(やまテラス王滝の活用)



春～秋は、御嶽山ビジターセンターやまテラス王滝を拠点に活動させていただきました。観光地における思い出に残るサービスの提供・接客について、王滝村を愛する村のスタッフの姿から学ばせていただきました。

私の得意とする野鳥の観察会も田の原や銀河村キャンプ場、自然湖などで開催させていただき、王滝村や御嶽山に生息する野鳥を紹介することで、この地域の魅力発信に努めてまいりました。県外の野鳥クラブなどの団体も継続的に王滝村を探鳥地を選び、足を運んでくださっています。



協力隊卒業後の生活を見据え、おんたけ休暇村様にご協力いただき、山岳ガイドの知識・技術の習得に努め、「信州登山案内人」に合格することができました。また、火山防災の啓発や魅力発信の推進役である御嶽山火山マイスターの活動に、自身の活動との共通点を見出し、より多角的に御嶽山地域と関わっていきたいと思い、御嶽山火山マイスターを受験し、9期生に認定していただきました。

ライチョウの保護活動への参加・学習

御嶽山にも生息している絶滅危惧種のライチョウ。この尊い命への理解を深めるため、新潟県火打山におけるライチョウ生息地回復事業に3度参加させていただきました。高山帯での作業は非常にハードなものでしたが、日本全国からのライチョウを愛する参加者や環境省の方と会話することができ、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。



私は開催する野鳥観察会では、御嶽山で暮らすライチョウについて話すこともあります。火打山での活動を通じて学んだことを多くの皆様にお伝えし、ライチョウとの健全な付き合い方を見直すきっかけになればと思っています。

御嶽スキー場の継続・発展に繋がる企画提案と実行、マニュアル作成

御嶽スキー場を運営している㈱シシ様には協力隊着任前からお世話になっており、協力隊任期中も様々なことに挑戦させていただきました。冬季は、パトロール隊員の研修生として、スキー場における安全管理・怪我人の応急手当などを経験させていただき、スノースポーツを提供する立場としての安全・楽しさ・自然環境への配慮を含めた総合的な責任を身をもって勉強することができました。また、「おんたけゲレンデ探検隊」という集客イベントをスキー場と共に企画運営することが出来まして、スキー場に来場されるお客様に楽しんでいただくことができました。また、スキー競技に関する専門性を高めることも重要と考え、スキー場の皆様にご指導いただき、公認スキー準指導員に合格することができました。



今後の活動について

協力隊卒業後につきまして、引き続き、おんたけ木曽観光局様、㈱シシ様、おんたけ休暇村様にお世話になり、御嶽山ビジターセンターやまテラス王滝、御嶽スキー場などで仕事をする予定です。山岳ガイド協会に入会しましたので、足が治ってからにはなりますが、ガイド業の仕事にも着手していきます。これからは、「協力隊経験を通じて、王滝村の観光・自然環境についてより専門的な人」になれるよう、3年間の協力隊の経験を資産化していきたいです。

この3年間、地域の皆様に支えられて、いろいろなことに挑戦できました。東京での仕事を辞めて、この地に移住を決断することは、とても勇気のいることでしたが、あの時の決断は間違っていなかったと思っています。

これからも王滝村の皆さんとともに明るい未来を描きながら、この地で豊かに暮らしていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



古川 さゆり（活動期間：令和5年7月～令和8年6月）

地域おこし協力隊として着任してから、3年間の任期を終えました。初めての土地、初めての山暮らしで、着任当初は、この地域で自分が何をできるのか、どんな形で地域と関わりながら生きていきたいのか、明確な答えを持っていたわけではありませんでした。その中で、手探りではありましたが、活動を1つの分野に絞らず、さまざまなことに取り組んできました。

ビオスチーム（発酵野草蒸し）

12種類の野草と発酵菌を使ったスチームセラピーである「ビオスチーム」の資格を取得し、サロン形式で行ってきました。

最初は、村にない新しいものを提供することが自分の役割だと思っていましたが、約2年間続ける中で、どんな需要があるのか、身体にどのような変化があるのか、どんな楽しみ方があるかなど、私自身が利用者の皆さんから多くのことを教えていただきました。

施術内容や内装など、利用してくださる方々と一緒に育て、つくり上げてきたように感じています。



菌ちゃん農法の実践

農薬や化成肥料にできるだけ頼らず、地域にある素材を使い、無理なくできる農法を探している中で、落ち葉や木材などを使い、土の中の微生物や菌を生かす「菌ちゃん農法」に出会い、学び、実践してきました。始めて1年目で、昼過ぎに日が陰る九蔵の土地で、ほとんどの野菜を実らせることができ、それを見て菌ちゃん農法を始めた方も数名いました。

実践を通して、森が身近にあり、落ち葉や木材、ダムの流木まで活用できる王滝村は、この農法にとても合った場所なのだと気づきました。



海外ボランティアツアーのアテンド

協力隊2年目に、支援企業の合同会社 Rext 滝越の事業である海外のボランティアツアーの受け入れにおいて、アテンド業務を担当しました。

参加者と数週間の長い時間を共に過ごし、村の現状や暮らし、文化などについて細かい説明をする中で、私自身も改めて王滝村を学び、考えることができました。

また、タイで開催されたボランティアツアー会社の国際会議にも参加させていただきました。



日本人は自分たちだけという環境の中で、英語のみのコミュニケーションをとった経験や、他国から見た日本や王滝村について考えたことは、自分を成長させる貴重な機会となりました。

他にも、田ノ原の環境整備や郷土料理講習会の麴作りなどを担当しました。



3年間を通して

この3年間は、さまざまなことに挑戦する一方で、迷いも多くありました。着任当初は、この土地で暮らすことの面白さや豊かさを次々と発見し夢中になり、挑戦してみたいことで溢れていていました。

しかし、次第に地域での暮らしが日常になっていく中で、いつの間にか自分の行動範囲や視野が狭くなり、協力隊として何をすべきなのか分からなくなる時期もありました。この感覚もまた、山間部で暮らし続ける中で起こり得ることの1つなのだと、身をもって実感しました。地域の中に深く入ることの大切さと同時に、ときには外へ出て、違う場所や人、価値観に触れて、そこから改めて地域を見つめ直すことも必要なのだと思います。

振り返ると、一見ばらばらな分野の活動をしていたように見えますが、人の身体と植物、微生物や菌、土や自然、地域と外の世界など、興味の赴くままに関わってきたことが、徐々に自分の中で繋がっていきました。

3年間の経験の中には、これからの自分の生き方や仕事の土台を考え、作っていく上でのヒントがたくさん詰まっています。至らぬ点も多くありましたが、本当に多くの方に助けていただきながら活動することができました。自分一人ではできなかった経験ばかりです。関わってくださった皆さんに感謝しています。



今後の活動について

任期終了後も、地域での暮らしを続けながら、今までの活動をさらに深め、少しずつ自分自身の暮らしや仕事として形にしていきたいと考えています。

その中でもビオスチームは今後の主な活動として、サロンという形で継続する予定です。これまでの学びを活かしながら、より身体の悩みに寄り添うだけでなく、日々の暮らしの中でホッと力を抜くことのできる場所を作っていきたいと思っています。また、これまで取り組んできた、農や自然との関わりも、仕事と切り離して考えるのではなく、自分自身の暮らしの中で続けていきたいと思っています。

王滝村での暮らしを大切にしながら、ときには外へ出て、新しい価値観に触れる。新しいことにも挑戦しながら、これからも自分なりの暮らしと仕事を作っていきたいと思っています。3年間ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

